

## 令和4年度 第2学期終業式 校長講話

今日で2学期が終了しますが、振り返ってみていかがでしたか？

引き続き新型コロナウイルス感染症の影響もありましたが、文化祭や2年生の修学旅行が無事実施され、皆さんの楽しそうな姿を見せてもらい、とてもうれしくなりました。また、授業や部活動での活躍を見ることも私の大きな楽しみの一つでした。また、2学期は、卒業後のことを決めなければいけない3年生は言うまでもなく、1・2年生も科目選択などを通して「進路」について強く意識をもった人も多かったと思います。皆さんにとって、いろいろな点で有意義な2学期だったと思います。

先日までカタールで開催されていたサッカー・ワールドカップは大変盛り上がりました。皆さんの中にも期末考査の勉強しつつ応援していた人もたくさんいたと思います。残念ながら決勝トーナメントで負けた相手国クロアチアの選手の胸に日本の国旗が付けられていた、との記事を読みました。試合を共に戦う相手国へのリスペクトを示すためだそうです。ただ試合で勝つことだけを考えるのではなく、そんな思いやりをもてるチームって素敵だなあと思いました。

突然ですが、料理の世界でミシュランガイドという本があるのを聞いたことがありますか。日本人で初めてフランス版ミシュランガイド三つ星を獲得した小林圭さんという料理人がいます。厳しい修業の末、本場フランス・パリに自分の店を開き、その料理が多くの人から高い評価を受けています。この人が語っていたある言葉に「はっ」とさせられたことがあります。それは「目指すのは客の記憶に残るひと皿。食べれば終わりと言われるけど、本当にいい料理は一生脳に残る。コックは、命を奪ってしまった食材をお客さんの頭で生き返らせる仕事なんです。」私は、特に最後の「食材を生き返らせる」というところに感心しました。私たちは、絶えず周りから多くのものを受け取っています。自然の恵みなど食事だけでなく、言葉やささまざまなサービスを受け取ることで生きている、と言っても過言ではありません。

あるイラストレーターの方がこんなことをおっしゃっていました。「自分に似ている人からは、共感が得られます。自分に似ていない人からは、教訓が得られます。」私たちの周りには多様な方々がいますが、特に「似ていない人」から学ぶ姿勢をもつのはなかなか難しいものです。しかし、こうした人を拒絶するのではなく、何かを受け取ろうとすると何だか気が楽になるし、もしかするともっと自分の世界が広がるかもしれません。

本日のお話で一番言いたいことは、他の人や周りの環境を受け入れる姿勢をもってほしい、できたらやさしさや感謝の気持ちを持ってほしい、ということです。これができたら、今後の高校生活でも、また、もっとさまざまな人と出会う社会に出ても、皆さんの力が発揮しやすくなると思います。

3学期は1年の総決算になります。3年生にとっては3年間の総決算となります。皆さんが気持ちも新たに冬休み中に新年を迎え、1月10日の3学期始業式を元気に迎えることを願って、お話を終わります。